



いわいしま通信

祝島のイラストマップが完成しました！

「万葉の島 祝島」のイラストマップができました。（7月25日に完成。できたてのホヤホヤです！）

四つ折になったサイズは横10.5cm×縦22.5cmで携帯しやすくなっています。

表紙を開くと「祝島地名マップ」が現れます。この地名マップの元になったものは、今回5ページの会員リレーコラムにご登場の唐木さんのお父さんが作られたものです。祝島出身者でも「もちど」や「北野」くらいは分かって、「院名倉」とか「春の木」と言われると「???」な人が多いのではないのでしょうか。皆さんもこの地名マップでぜひ地名を覚えてください。

そして、地名マップをさらに左右に開くと「祝島散策マップ」が現れます。島の人家の道のイラストや見どころ、目印などの写真が掲載されていて、島の観光に役立つようになっています。

裏表紙には祝島の紹介、定期船時刻表、宿泊施設の案内が記載されています。

完成したイラストマップは祝島不老長寿マラソンなどのイベント参加者に配布するほか、各宿泊施設などにも置いてもらって、観光客の皆さんに役立てていただこう



と思います。

会員の皆さんには、この会報と一緒に1部ずつ配布いたします。

尚、イラストマップの制作にあたっては、祝島出身の村岡正司さんに大変ご協力いただきました。誌面を借りて御礼申し上げます。



表紙を開くと地名マップ(上図)が、さらに開くと散策マップ(下図)が現れる仕掛けになっています。



目次

イラストマップ	1
祝島の歴史を探る	2
マラソン&落語	3
魚・さかな・肴	4
花*花クイズ	4
会員リレーコラム	5
松田正平さん	5
祝島懐かしの料理	6
Lets learn English in Iwaishima!	7
お知らせ&募集	8

祝島の朝日は

拝みたくなるぐらい美しい

(画家 松田正平)

先日私の父が「ショーヤン」だと言ったことから「ショーヤン」という呼び名について当会のメーリングリストでいろいろな話を聞かせて頂きました。私自身は日常的に使ってきた「ショーヤン」の意外な反応に戸惑いしましたが、今回はその愛すべき「シャーヤン」というような島の“シコナ”について少し考えてみることにします。

“シコナ”は名のり名である“屋号”よりは通俗的なもので祝島の人々が呼び習わした通称、俗称のことです。宮本常一さんの著書によると“シコナ”は「村社会では他人を非難したり批判したりするような場合には通常相手の名を露骨にいわない。シコナ（醜名：シュウメイ）というか、独特な呼び方をする。そして会話の中にも多くの隠語が入り、比喩がはいる。そのことゆえに他人の批判もできたので、面と向かって相手を責めることが少なかったが、かげで物いう場合にも悪意にみちたものではなかった。家々のシコナは全国的なもので各地とも盛んに用いられている。」ものだったそうです。しかしそういう呼び名も時代と共にすたれ、言語研究のために屋号調査をされている梅光女学院の岡野信子先生は「屋号やシコナで呼び合っていた時のほうが隣近所が親しく、屋号使用の衰退は、家を単位とする近隣社会生活が崩れつつあることを見せているのではないか。都市社会の中の無名性、そして近隣の家々への無関心性は農漁村にも広がるようになっている状況がそこにある。」と書いています。

では祝島はどうでしょうか。次にあげる“シコナ”は平成6年、前出の岡野先生・県史編纂室の金谷匡人氏が祝島の屋号調査に来られた時の報告書の抜粋です。

コージロー / 当主の名前ではないから、先代、あるいは先々代の名前が家の通称となっているのであろう。

ジンベー / 「磯の上」という屋号であるが、「ジンベー」が人々の口にのぼる事が多い。当主の曾祖父の名らしい。

ショーゴ / 「本家株」に「庄五郎株」がある。庄五郎は当主の曾祖父らしい。

タロイ / 「タロイ」は「太郎右衛門」である。何代か前の世帯主の名がしこなとなっている。

ハンジロー / 当主の名ではないので、父か祖父、あるいは曾祖父の名がしこなとなっている。

カンマーサー / 「サー」は接尾辞「さん」である。先々代が「万吉」であるというのが「カン」は何であろうか。

ヤノサー / 当主の父「ヤノスケ」の略称に「サー」（さん）を添えたもの。

ミヤサー / 「峰一」の頭音に接尾辞の「サー」を添えさらに「屋」を添えている。「峰一」は当主の、父であるらしい。

オケシュー / 屋号「桶屋」と先代の名「清」とを組み合わせた名である。

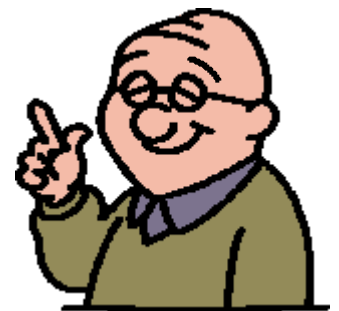
ドテヘーサー / 屋号「土手屋」と人名「ヘー」とを合わせて接尾辞「サー」を添えた呼び名である。

イワマンサー / 「岩本万吉」の通称の略称に「サー」を添えている。

ヤマサク / 「山本作一」の略称である。

ヤーニー / 「ニー」（兄）という親族称を添えた呼び名である。

オーラ / 「オーラ術」という揉み療治を習慣にしてくて揉み医者をしていた家。



いかがでしょう、みなさんも知っている“シコナ”がたくさんあるのではないですか。私達の世代になると“ヤーニー”は「ヤクルトヤーニー」になり“サー”の変形「サノサー」など面白いくらい継承されて祝島には結構屋号やシコナで呼ぶ習慣が残っています。もっともあだ名につけた「サー」や「ヤーニー」の意味など知らずに使用し、「ショーヤン」の由来もメーリングリストで教えてもらうまで誰のことを比喩しているのか知りませんでした。慣れ親しんだ島人の通称や俗称も知っているようで知らないもののひとつでしょう。

“シコナ”はメーリングリストで氏本さんが書かれていたように「生活の目的や価値観もバラバラ、隣人であることの必然性がなく、隣人との付き合いをうっとおしく感じる都市生活者」には必要のないものであって「現在の都市型生活にはないもの」です。良くも悪くも、島に

は"シコナ"や"屋号"で呼び合える濃厚な人間関係が今でも残っていて、その束縛から逃れて都市生活者となった私達の世代にあっても"シコナ"は祝島の共通認識として故郷を思い起こす起爆剤のようなものとなっています。そしてその名前の由来を知り一人一人の生き様に触れることでもっともっと祝島がいとおしくなると思います。"シコナ"の響きやその由来は良き時代の祝島の象徴であり、個性的でおおらかな祝島人の魅力が伝わってきます。

本来は"シコナ"より先に"屋号"のことから進めていくべき話でしたが紙面の都合で今回は"シコナ"のみを記載しています。"屋号"はもっと奥が深くて想像力をかきたてます。廻船問屋だったと思われる屋号も何件もあり、幕末に活躍した下関の豪商・白石正一郎のように高杉晋作や「志士」達の手助けをしたこともあったのではないかと思いは膨らみますがこれはまたの機会に。(この祝島からも2名奇兵隊に参加していたそうです。)

第3回祝島不老長寿マラソン」& 「祝島寄席」開催について

國弘 秀人

今年も「祝島不老長寿マラソン」の開催が近づいてきました。只今、私たち大会実行委員は準備の真っ最中です。大会当日は、会員の皆さんをはじめ、島民の皆さん、島に帰省される皆さんにボランティアをお願いすることになります。大会はボランティアの皆さんの協力なくしては運営できません。よろしくお願いいたします。

さて、参加されるランナーの皆さんは、昨年にも増して全国的な広がりを見せているようです。関東方面や九州方面からもたくさんの申込みがありました。連続出場の方連さんもらっしゃいます。参加者数は昨年同様、募集数を大幅に越えて140名近くになりそうです。

そして、今年はゲストランナーとして、落語家の三遊亭楽松さんが参加されることになっています。楽松さんは、テレビ番組「笑点」などでもおなじみの三遊亭円楽師匠の孫弟子にあたります。マラソンが趣味で「市民歩走者学会」の副会長も務めておられます。昭和39年生まれ、平成4年に真打昇進。なぜかホームヘルパー2級の資格も持っておられ

「祝島寄席」
出演 三遊亭楽松
場所 善徳寺
日時 八月十日(日)
午後三時～四時
入場料 大人千円
中学生以下 五百円
(主催 祝島ネット21)
※入場券はエヘス商店と桑師商店で発売中です。
※問合せは国弘まで(電話090-7998-1835)

るとのこと。で、せっかく祝島に来られるのだから、ぜひ祝島で落語をやりましょう、ということになり、善徳寺を借りて「祝島寄席」を開催することになりました。お楽しみに。(詳細は上のポスター参照)

尚、大会オリジナルTシャツは、今年も村岡正司さんのデザインです。昨年までのデザインとは雰囲気ガラッと変わって、流行の和風デザインになっています。いかがでしょうか？ 大会参加者とボランティアの皆さんには無料で配布されます。



<連載> 魚・さかな・肴(6) ~アジ~

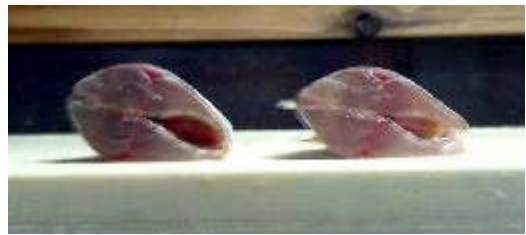
木村 力

祝島でふつうアジというのは「ヒラアジ」です。一年子は「デンゴ」といいます。「アジ」という名は、味がよいので付いた名前、という説が江戸時代に紹介されているそうです。

よく似たアジに「マルアジ」がいます。祝島では5月頃から釣れ始めます。その頃祝島近辺に群でやってくるようです。場所を少しずつ移動しながら8月頃まで釣れます。マルアジの子はデンゴより青っぽいので「アオコ」といいます。ハマチ釣り(ノマセ)のエサにはこちらの方が良いとされています。

人間はマルアジよりヒラアジの方に数倍高い値を付けていますが、ハマチは反対のようです。ハマチはアオコ(マルアジ)の方が良く泳ぐから食欲を湧かせるということのようですが、私はゼエゴ(側線のギザギザ)が小さいのも関係があるのではないかと思います。マルアジの方が飲み込みやすそうなのです。

中学生の頃、祝島で夏に波止の先からムシ(ゴカ



左がマルアジ、右がヒラアジの断面です。

イ)を付けて竿で釣っていたのはヒラアジの方です。ギューと来る引きが特徴でした。マルアジの大きいのは別名オキアジと呼ばれ、波止から釣れたことはありません。祝島の船釣りで時々釣れるアジに「パカアジ」というのがいます。ヒラアジと思うのですが、バカにでかいのです。ばかでかいから付いた名前なのでしょうが、大味でもあるようです。10年くらい前にヨボシで釣ってから、それ以後釣れず、写真もありません。60~70cmはあったように思います。



マルアジ



ヒラアジ

<連載> 花*花クイズ(5)

前回の花*花クイズの答えは「スズシロソウ」でした。



早春、まだ虫も出ない冬枯れの中で咲き、セツブンソウと春の一番乗りを競います。容姿端麗、春風運ぶ花でもあります。

行者堂への坂道で、この清楚な花に出会うと、思わず歩がとまり、心癒されます。来春、冬の陽だまりで、スズシロソウに囲まれ、至福のひと時過ごされること、お勧めです。

近畿地方から、西に分布しているアブラナ科の多年草。高さは二十センチ前後。四弁花で昔は十字花植物ともいったらしい。大根と同じ仲間。スズシロとは大根の古名だから、大根草といったら、イメージが壊れるかな?!

橋部 好明

さて、今月の花の名は?
北野道で、今年は、ぽつんと一本だけ咲いていました。有史以前に、中国から帰化したとか……。



会員リレーコラム(6) ~ 唐木 俊夫さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第6回目は唐木俊夫さんの登場です。



福山の唐木俊夫です。私自身は福山生まれの福山育ちですが、両親が祝島の出身です。父が唐木の長男、母が木下の長女で、二人とも8人兄弟のため、私のいとこは32人います。ちなみに、この会報に「祝島の歴史を探る」という素晴らしい連載を寄稿してくれている蛭子葉子ちゃんもいとこです。私も長男で、昭和31年2月29日に生まれました。29日だと誕生日が4年に1度しか来ないので、戸籍上は3月1日生まれになっていますが、神舞とオリンピックのある年だけ本当の誕生日があります。

小学校の頃、春休みと夏休みはほとんど祝島で過ごしていました。いとこや、同じ年頃の祝島の友達に遊んでもらい、春はハマグリを掘りに長磯へ行ったり、夏は泳いだり、魚を釣ったり、二学期が始まったら誰よりも日に焼けて黒かったのを覚えています。

松田正平さんの記事

祝島を描いた画家として知られる松田正平さんの生き方を紹介した記事が季刊誌「銀花」2003夏号(文化出版局)に掲載されました。記事は28ページに渡っています。代表作として有名な「周防灘シリーズ」も数点掲載されています。少し抽象的な絵ですが、祝島出身の方なら、どこを描いたのか想像はつくはずです。松田正平さんは絵画の世界ではとても有名な方で、祝島に来られるお客さんの中には、「松田正平さんの描いた祝島を見に来た」とおっしゃる方も少なくありません。

祝島で釣りが好きになって以来、福山周辺でもいろんなところに釣行していますが、7年程前から、メバルの夜釣りにハマッてしまい、尾道周りから呉に至るまでの島々にメバルを求めて通っていました。遠くまで行く割に釣果に恵まれないことが多く、「そうだ、祝島があるじゃないか。」と思い立って、4年程前から冬から春にかけてメバルのシーズンによく帰るようになりました。最近は平均すると2ヶ月に3回ぐらいでしょうか、1年を通してしょっちゅう祝島に帰っています。

家は祖父母が死んでから誰も住んでなく、時々親父が帰ったり、法事でみんなが集まる別荘のようなもので、私が行く度に、道具や防寒着・長靴などを置いて帰り、今では釣りの基地と化しています。餌だけ買って土曜の昼過ぎに福山を出発して、玖珂インターで降り室津まで2時間、港の駐車場に車を停めて晩便で帰り、明け方近くまで釣って朝便で戻るパターンが多いのですが、時には朝一番の船で帰り、昼過ぎまで三浦でキスゴを釣って、夜は東でメバルを狙うこともあります。

祝島で釣りができ、おいしい魚を食べれることに感謝して、西の墓所にある我が家の累代墓に参ると、牛島から鼻線りの灯台・天田まで本当に素晴らしい眺めが広がり、いずれは私も青いきれいな海をいつも眺めていたいと思います。そして、その頃にも、墓から見える景色が変わっていないことを心から願っています。

< 唐木俊夫 >

もし、松田正平さんの後援会に入会したい人がいらっしゃいましたら、下記まで連絡してください。因みに、木村会長はすでに入会しているようです。



「銀花」2003夏号の誌面

〒755-0019 宇部市東新川4-6

松田正平後援会

入会金7000円、年会費3000円

<連載> 聞いてみん菜・食べてみん菜』

祝島懐かしの料理(2) ~ところてん~

祝島・食べてみ隊

暑い盛りに行われる祝島不老長寿マラソン。昨年の大会当日もとっても暑い日でした。選手の皆さんは汗だくになり、疲れ切ってゴールイン。そこへ島のボランティアの皆さんが、祝島特産のテングサから作ってくださった特製のところてんが振舞われ、皆さん、これはおいしい!、と大喜びしておかわりされるほどの大好評を博しました。

ところで、ところてんはどうやって作るのか、皆さんご存知でしょうか。祝島の方はご存知でしょうけれど、何からできているのかをご存知ない方も多いのではないのでしょうか。

ということで、まずはテングサ(天草=紅藻類)を採るところから。テングサの採集から干し上げるところまでは木村会長からの『作ってみん菜』です。



6月22日、台風直後、磯に打ち上げられているのを採ってきました。このときは紅い色をしています、水につけては天日で干すということ

を、何日かやっているうちにだんだん白くなってきます。



6月30日。小分けにして干していますが、雨が多かったため、白くなるのに少し時間がかかっています。



ほぼ仕上がりです。こうして出来上がったテングサは、祝島で袋詰めにして売られています。

暑い夏には
これが一番!
作ってみんなさい!



【ところてんを作しましょう】

(1) 今回作ったのはこの袋詰めにしたものの3分の1ぐらいでしょうか(50g)、水に浸して20~30分おきます。



(2) よく洗った後、鍋にいれてたっぷりの水(約2リットル)に酢を大匙1杯ぐらい加えて煮立たせます。

(3) 煮立ったら弱火にして、時々かき混ぜたり、あくを取ったりしながらことごと30~40分煮詰めます。



(4) 水がとろ~りと重くなって、半分ぐらいになったら平たい器に移し入れます。このとき、出来れば木綿の布などで漉すと仕上がりがきれいになるんですが、面倒なので目の細かいざるを使いました。そのためちょっとテングサのカスが底のほうに残ったりしますが、まあ自分で作ったという自己満足の結晶と思えば、気になるほどのことでもありません。



(5) 2時間ぐらいで固まってきました。ところてん突きで突きお皿に盛ります。我が家にはところてん突きがないので、手切りにしました。



しょうがや刻みネギ、あるいは青じそなどの薬味をのせて出来上がり。この分量でちょうど4人前でした。

暑いときに食べるところてんは、のど越しつりとして、最高ですね。以前友達に、祝島のテングサから作ったところてんをあげたら、「海の香りがする」と言って喜んでくれました。

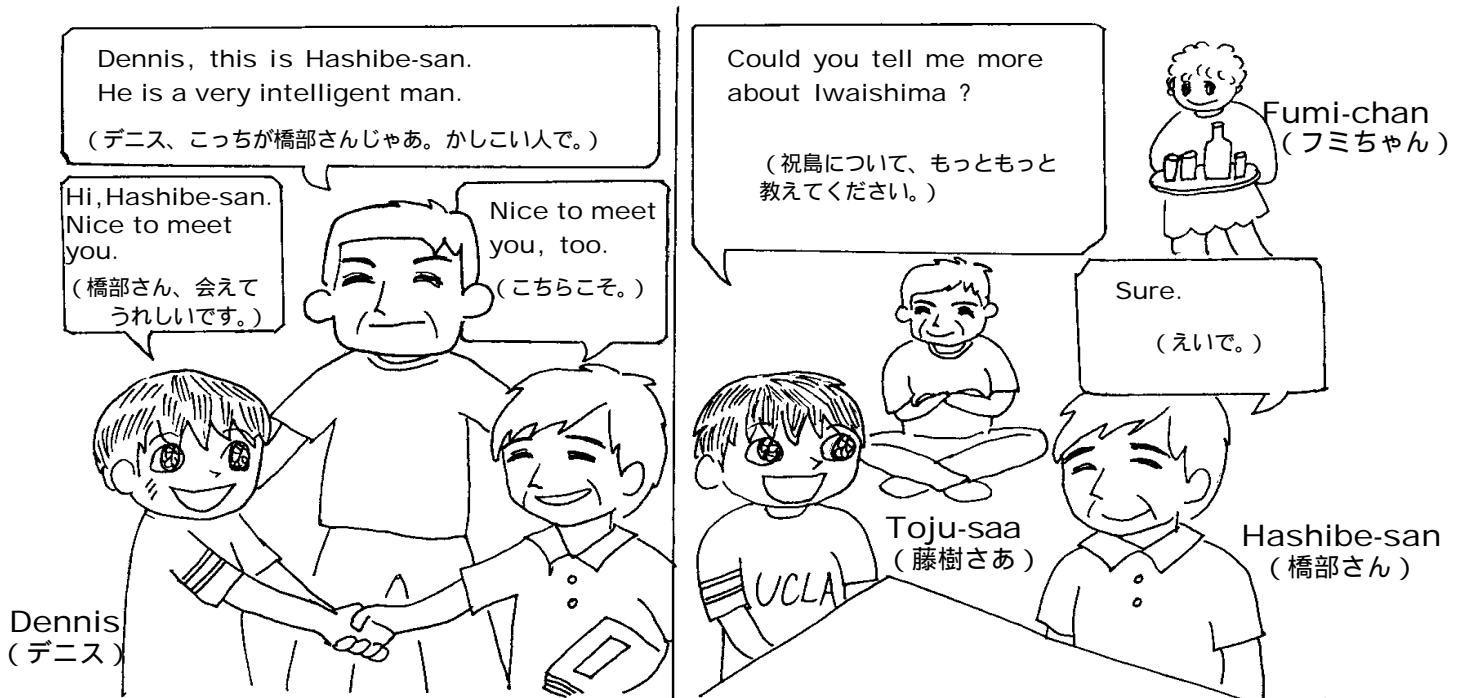
--- 美しい海からの贈り物 ---

Let's Learn English in Iwaishima!

岸本 智恵美

Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (5)

* デニス是我的の友達です。



A long time ago, almost 10,000 - 20,000 years ago, Iwaishima was not an island. At that time, the Inland Sea was grasslands, not sea. And some families of mammoth were walking around here and there.

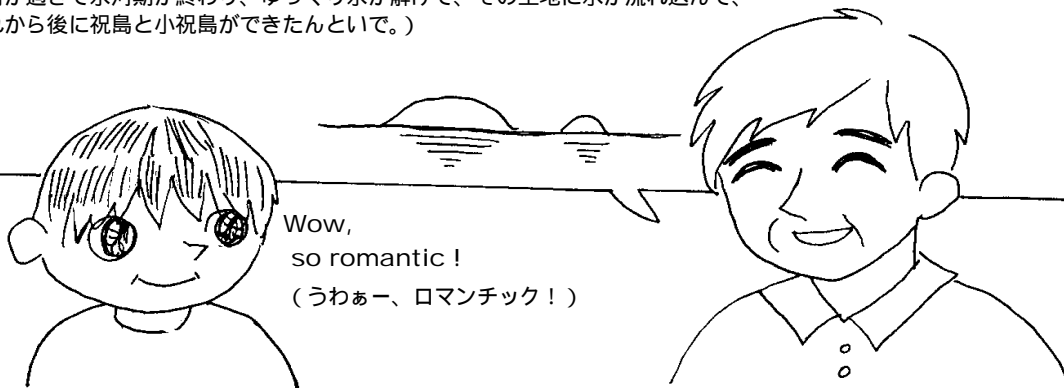
(昔々、1万~2万年前、祝島は島じゃあなかったんといで。当時、瀬戸内海は海じゃあのをうて草原じゃったらしいわ。マンモスの家族があっちこち歩き回ろうたらしいで。)

There was a small hill that was a smoking volcano in the west of the grassland. It erupted again and again.

(その草原の西の方に、こんびい丘があったんじゃが、噴煙を上げる火山で、何回も噴火をくり返したんといで。)

Time passed and the ice age ended. The ice melted slowly and water came into the land. After that Iwaishima and Koiwaijima appeared.

(時が過ぎて氷河期が終わり、ゆっくり氷が解けて、その土地に水が流れ込んで、それから後に祝島と小祝島ができたんといで。)



(あらずじ) 初めて祝島に遊びに来たデニスは、祝島をとても気に入ったようす。祝島について、もっと色々知りたいというデニスに、フミちゃんは「祝島のことを聞きたいんなら、橋部さんに聞くのがよからう」とアドバイス。そっそく藤樹さあが橋部さんを読んできてくれました。

活動紹介

お盆に「神舞映写会」を開催します

神舞人材育成活動の一環として、お盆に「神舞映写会」を開催します。昭和47年の神舞のテレビ放映と、昭和51年の神舞の記録映画の16mmフィルムです。懐かしい顔もたくさん登場します。小屋建てをはじめ、神舞の準備の様子も見ることができます。お盆に帰省される方は、ぜひご覧下さい。映写会準備の手伝いもよろしく願います。

「神舞映写会」

日時：8月14日（木）

午後3～5時

場所：祝島公民館2F

入場料：無料

主催：祝島ネット21

お知らせ & 募集

「島の細道 紀行文集」 会員価格改定のお知らせ

ご好評いただいている「島の細道 紀行文集」6月までは、自前のインクジェットプリンタで印刷して製本していましたが、製作に大変手間がかかることから、今後は印刷会社に製作を依頼し、レーザープリンタで製作することにしました。紙質も変わりましたので、今までと風合いが少し違いますが、これによって製作の手間がかからなくなるだけでなく、耐水性や保存性も向上しました。

これを機会に販売価格を改定させていただくことにしました。一般販売価格は今までと同じ1冊500円のままですが、会員価格は1冊400円に改定させていただくことにしました。ご了承ください。

ちなみにこれまでの販売部数（無料配布分を除く）は、約120部です。

祝島イラストマップの販売価格

本誌1ページで紹介している祝島イラストマップの販売価格は下記のとおりです。会員の皆さんには1部ずつ無料配布いたしましたが、追加でご希望の方は事務局までご連絡ください。（送料は別です。）

一般販売価格 1部100円

一括大量購入（50部以上）の場合は割引させていただきますので、別途ご相談ください。

会員特別価格はありません。一般と同じ価格です。



編集後記

長かった梅雨がようやく明けました。今年はずいぶん雨が降ったので、水不足にはならないのではないかと思います。どうでしょうか？ さて、いよいよ本格的な夏がやって来ます。夏と言えば盆踊り、カラオケ大会、そして祝島不老長寿マラソン。おまけに今年は祝島寄席に神舞映写会と、なかなか多彩なイベントが待っていますよ。皆さん、ぜひ祝島に帰省してください。そしてイベントに参加しましょう。ついでに手伝ってください（^^）。

話は変わりますが、以前に会員の津野崎英子さんが、「祝島のびわ農家では、クズびわを大量に捨てていてもったいないので、有効利用できないか」という話をされていました。今年は、試しにびわタネの乾燥させたものを祝島ホームページで販売していますが、意外と反応がありますね。都市部の人や寒い地方の人は、欲しくてもなかなか入手できないようで、名古屋・金沢・兵庫・神奈川・山梨などから注文が届きました。びわタネはびわ葉よりも薬効成分が多いらしく、焼酎漬けにすると、口内炎、胃のもたれ、水虫、のどの痛みなどに効くそうですよ。需要が見込めるようなら、来年は少し規模（生産量）を拡大したいと思っています。

次号は10月発行の予定です。お楽しみに。

（編集長：國弘秀人）

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。祝島ネット21では随時会員を募集しています。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



びわタネ（500g入1000円）